

に入った渥美線の電車がアメリカの艦載機P51の攻撃を受けて十五人が死亡、十六人が負傷したことである。電車には四十五人が乗っていた。停車し、出口から一目散で外に出て無事な人や、中にいて助かった人もいたが、けが人は近所の人やみなでりヤカー、牛車、天戸板などで渥美病院に運んだ。電車の中は、血肉が散乱していた。病院の廊下に並べられて手当てを待っていたが、その途中で死亡した人もいたそうだ。病院の出来事は後で聞いたが、医者や看護婦さんはもちろん、関係者全員でんやわんやの大騒ぎで、目を覆いたくなる光景であったということだ。私の同級生も三人犠牲になった。

私の家は、小作農でも食料が不足して食生活は苦しかった。農家でない人は特に食べることに苦労した。

会員の声 田んぼを通して

河 遺 直 司
(昭和六十卒業)

我が家では、四人の子供たちが田原東部小学校でお世話にな

りました。子供が在学中は、さまざまな行事を通じて母校に足を運んでいたので、最後の子供が卒業する時には、なんんだ寂しくなるなあと思っていました。

しかし、ご縁がありました。子供がいた頃もPTAとして関わっていましたが、子供が卒業したあと、五年生と行っていた米作りに、PTAの皆さんと一緒に引き続き参加させていた。米作りは、春、学校のハウスで稲を苗から育てるところから始まります。五年生が毎日、朝と昼交代で水かけをします。苗はまだ弱々しいので、大切に育てます。そして四月下旬、その苗をみんなで田んぼに入って植えます。初めて入る田んぼの感触は、感じ方がみんなそれぞれです。緊張する子、田んぼに足をとられて転ぶ子、みんなとても楽しそうです。今年も、みんなの手で田植えをしました。苗はぐんぐん成長します。生育の様子や、稲の花が咲くときには、小さな花を観察したりしまし



た。先生方には、米作りを授業に取り入れていただき、ありがたかったです。

秋には稲穂が笑い、いよいよ稲刈りです。ほとんどの子が、鎌を使うのは初めてですが、みんなで汗をかきながら、自分たちの手で収穫し、脱穀します。できたお米をどう使うかは、五年生が決めます。試食をしたり、配ったりとさまざまです。

田んぼのある風景は、気持ちのいいものです。自然豊かな東部小は、子どもたちの表情も一人ひととても豊かです。子どもたちからたくさんさんの刺激や気づきを受け、一緒に勉強させてもらっています。

今の私

後 藤 祐 作
(平成二十五卒業)

ずつと先のことだと思ってい

た成人式を迎えて、新たな人生の第一歩を踏み出しました。思い返してみると、長くもあり、短くもある二十年間でした。成人式後に訪れた小学校は、記憶の中の姿と変わらず、どこか安心しました。

今の私は昔の自分とは違い、あまり上手く人と会話ができません。それでも、同級生は優しく接してくれ、少ない言葉ながら会話をすることができました。とても良い時間を過ごしました。

好きなことを見つけると、夢中になって楽しむ子供心はこれから忘れてしまわず、どんなときにでも『楽しい』を見つけて、『人生楽しんで』胸に、悔いのないように生きていきたいです。

今のは就職して、工場で働く大切な宝物だと感じました。

今のは就職して、工場で働く大切な宝物だと感じました。

今のは就職して、工場で働く大切な宝物だと感じました。

